

保育叢話

(承前)

光藤夫人

下田文學士が嘗て本誌に於て母親の事を論ぜられし時、孟母の虚言を忌みし事より其弊を御説きになりましたが、實に虚言、しかも母親が幼兒の面前で虚言をしますることの害は恐るべきものがあると思ひます、ワシントンの親が嘘を嫌はれしも、菊池男爵が子女を養育されるに、尤もひどく子供を責めらるゝは嘘をつきし時との事も理ある事と存じます。

虚言の恐るべき、或は有爲の人物を社會より葬らざるべからざる様な、恐るべき結果を來しますのは、よく新紙の三面記事に曝されてある事で皆様御存じで御座いませう。

名うてき強盜も其の罪惡の發現せし動機は嘘である事を思ひますれば、いかなる人も此の一點汚れなき幼兒の腦裏に嘘を忌み嫌ふの念を刻みつけて

おかなければなるまいと存じます、之れはだれも心得べき事柄で御座いますが、殊に此の幼時を教養すべき母親にありて切實に其の必要を認めるのであります、已に根を廣くしました樹木は之を抜き取る事が困難となります、已に幼時の心に嘘を平氣で言ふといふ様になりますれば、容易に之を矯正する事が出来ません、根の廣まらぬ中に雜草を抜き取るのは易う御座います、東西もわかぬ其の中に嘘といふ惡根を植付けない様にせねばなりません、所が實際世間の親御はいかゞで御座いませうか、素より身を教育界に入れて居らるゝ立派な人格を備へらるゝ親御は、別といたしまして、マゝ普通の父様母様はいかゞで御座いませう、嘘を教へてならぬ子供を訓戒するのに決して嘘をいふものではないと存じます、嘘は泥坊の始まりですと教へらるゝ側から母様が子供に對しての舉動はいかゞで御座いませう、御言葉はいかゞで御座いませう、子供の泣くのを止める時虚言される事はありますまいか、我が命令に従はせようとして空事を言はれる事はないでしょうか、之等は止を得ない場

合あひで虚言きげんが却かへつて功こうを奏まうするので臨機應變りんきおうへんの處置しよちであつて却かへつて機轉きてんのきく保育者ほいくしやと辨わじられますならば、私は重ねて申しのべたいと思おもひます、一時我われが命令めいれいを奉ほうせしむる手段しゆだんとして、或あるひは泣なくの止とめる手段しゆだんとして、虚言きげんをしますれば或あるひは泣なくの止とめるのを止とめませう、或あるひは命令めいれいに従したがひませう、されど無心むしんの子供心こどもこころの胸底むねぞこに嘘うそといふ悪事あくじを植付うえつけられた結果けつぐわはいかに御座ございませう、今其いまの弊へいは現あられますすまいかも知れませぬが、遂すてに母ははを信賴しんらいするの念ねんは幾いくらか薄うすらぐで御座ございませう、又嘘またうそを平氣へいきで言いふといふ根底こんていは確かに此處こゝに出來ありて、今いますぐ現あらはれずとも將來あしたいつか其そのの芽あがを出だす事ことがあるで御座ございませう、一時泣なくの防止ぼうしして、しかも惡徳あくとくを我子わがこに植付うえつけて機轉きてんが聞きく親おやもあつたものではあるまいと思おもひます、尤もつとも其そのれは實際じつざい困こまり切きる場合あひもないではありますまい、人手ひとて少ない場ば合あひお客様きやくさまはらつしやる、子供こどもはせがんで泣なき立たてるのぼせ上あるばかりになりし時とき、ママ嘘うそでも什し方かたがないから、おだまりよ、今いまにねねいお前の好すなリボンりぼんを買かつて上げますよ、ねねいよくわかりまし

た。之これで一いち寸すん一時じをのがれた其そののあとはずぐわすれた様に、其そのの儘ままに過すすといふ様な場合あひがないでもありますまい、しばらく忘れはて、居ゐりますと子供こどもの方ほうではそれがチャンと心こころに染こみて居ゐると見えまして、親おやの忘れはてた頃ころ、母かさんリボンを見みてやるつていつ、早はやくねねと二日ふたにち過ぎて言いひ出すか、十日かじふ過ぎて言いひ出す事ことやら分わかりませんが、母ははをして其そのの記憶ききの強つよいのに驚おどかされる事ことがありませう、實じつに親おやの方ほうでは何なんとも思おもはずについ口くちにしまかせに宜いい加減かへんな事ことですましておき得える、一言げんいかで忘わすれてよろしからうといふ意氣いき込こで又またオチダリを始はじめるといふ風ふうな事ことがあります、おくればせても子供こどもの要求えうきゆうを充おしてやりますればママーそれでも子供こどもは喜よろこび、親おやも其そのの言ことばを實行じつこうしました事ことになりまして、嘘うその種たねを植付うえつけられたとは申まをされませんが、時ときによりますと、其そのの要求えうきゆうに應おうずる事ことが出来できない場合あひがあります、そこで立派りっぱに嘘うそをついてはならぬと教おしへる母ははから子供こどもの心こころに嘘うそといふ種たね子を植付うえつけます、尤もつとも之これは一いち例れいに過ぎませ

んが、かゝる例は子供を育らるゝ母親が、日に幾度となく遭遇される事でありませう、其の都度子供の泣くのを止めるのに嘘を以てしましたならばどうで御座いますか、中には嘘も嘘も大嘘をつくものがありません、居もせぬ狼が出たとか、お化が来るとか、知れ切つた嘘を平気で言ふ母親子守をよく見受けまます、俗に子供が泣きますと、ドレ私にダマして上げますといふ一般に通じた言葉さへある、ダマスこのダマスとは何といふ言葉で御座います、このダマスを通り言葉の様に思ふて子供が泣く、私がダマして上げます、實に之れあるを見ましても、我國の上中下流を問はず、多くの家庭が此の嘘をいふのを平気で居るといふ事が分るのであります、私はどうか此のタマスといふ言葉はいづれの家庭からも驅逐したいものと思ふのであります、それは母親から先鞭をつけないければなりません、母親が先づこのダマスといふ事を絶対に非認してよく保育者に其の訓戒を守らせなければならぬと存じます、づいぶん私其の家でも最初子守或は下女を雇入れました當時はドレ私

ダマしてと泣きさへすればダマスといふて居るのを見まして、私は耳障りでたまりませぬ、その言葉のよくない事を言ひ聞かせました、此頃では申さなくなりましたが、只之れは母親の心掛一つでどうにてもなるのであります。そんなら泣く時はどう申さかと思はるゝ方もあるかも知れませんが、それはモ一仕方はありません、我儘で泣くか、痛を訴へるか、不平を訴へるか、よく其の原因を調べまして我儘で泣く場合は訓戒をするとか、或は叱るとか、不平を訴へる場合には、其の不平の原因を除くとか、痛みを訴へる場合には、其の苦痛を去る様つとめるとか原因調査に困り切る場合には、よく實行し得べき事柄を以て、之を止める様つとめるのであります、つまり泣ける場合に之を止める手段として、大聲叱咤する人があります、私は之は他に手段を施しても効なき場合の最後の手段であると存じます、なでならば、常に此の方法を用ひますと子供はモ一馴れ子になりまして平氣になる様になり、他に色々實行出來得る手段を考へまして、しかも効ない場合

に限りません、それで實行し得らるゝ手段とは一寸六ケしい事もありませんが、其の心をよく念頭におきまして、常にかゝる場合に遭遇する毎に、よく熟慮を費しましたならば、すぐと實行し得らるゝ考が泛んでまいります、今迄嘘を以て平氣で、其の泣くのを止めたものが、俄に實行し得らるゝ手段ほか、取る事が出来ぬ様になりしましたならば一寸困る事の様に考へられますが、少くとも、高等女學校卒業位の學識を有せらるゝ母様が、學び得たる識徳を以て、其の方法を考へ出されぬ筈はありませぬ、若し出来ぬならば、其の人は應用の力の缺乏した人で立派な母様とは申されぬのであります、只此處に思をめぐらす事をつとめず、只一時的に其の功を奏し様とつとめるから、嘘を以て固めた様な人間が出来易いので御座います、私はよく其の實例を見受けます、若い美しい母様が子供の泣きせがんで仕方ない時、持てあぐんで居られると祖母様が奥の方から、マダ泣いて居るのか、待つて居らつしやい、今恐ろしいお化が、ソレ其處から、御覽〜それ其處をと、いは

れると母様も口を揃へて、ソレ坊や母様も恐い事よ、ア、おばーさんモ御免なさい、坊は泣きません、大人になりました、可い子で御座いますよと、二人がゝりで嘘を以て其の泣くのを止められる様な事があります、之に通ふ事はよく目撃いたしますが、之等はマールお嫁様の身分として、姑のされる事に不同意するわけには参りませんからやむなき事の様に御座います、モール母様になられたお嫁様ならば、無様に母様そんな嘘ばかりおつきなすつては……とは申されませんがマール平素からよく氣をつけて、成丈嘘を言はない様に、子供に仕向けなければならぬ、自己の抱負を、人の氣に障らぬ様、實行なされたらば、一家人が皆其の感化を受けて、悪い風儀が改まるので御座いませう、之れ位の事は出来なければ、一家の主婦とは申されませぬ、何にいたせ人間は戦があらると何か大事があつた時ばかり、身命を捨て、盡すといふ様な事はかりが善行ではありません。人間の大事なものは平素の行で御座います、平素起き

動が大事なので、其の日其の時を慎む事が大事であります、之ればかりの事嘘を言ふたとて構はないとは、誰れの心にも起り易い所で御座います其の之ればかりの事、と氣を許しますれば、塵も積りて山となるの諺に洩れず、つひには大なるうそになるので御座います、そこで其の母の信頼は薄らぎます、同時に母親を侮る様になります、子供は我儘を始めます、我儘が長じては、ついに父親でも先生でも構はず、一寸其の面前丈は慎みましても、かけで悪事を働く様になります、こゝに於てか濟度したい悪少年少女となつて、ついに世間からは疎まれ、憎落の道をたどるより外ない破目に陥りまして、一身一家を誤るやうになるのあるも事と存じます。

一獨乙人の見たる日本

藥川生

一般とは申されませんが獨乙人は個人々々の日

本人に對しては頗る好意を表して居りますが、日本人全體としては、あまりそうでないかと思はれます。私の知つてをります、一獨乙人の如きは個人としては、大層親切に同情に富める人でありましたが、日露戦争當時の如きは、日本よりも遙かに露國の安危を顧慮して居るやうに見受けられました。

一度支那に勝ち更に露國を破つて、赫々たる光榮をになう日本國は、將來偉大なる使命を持つて居るものと思ひます。近來、新聞紙又は雜誌等に世界に於て日本人は優待され歓迎さるゝ記事を盛に見まするが、表面的でなく禮儀上でなく、骨肉相親むが如く日本を愛して居る西洋人は夥多ありませうが、思ふに之れは主として日本に對する皮層の觀察の爲め日本及日本人を誤解してゐる結果でありまして又一面には彼我文物の全く背馳してゐる爲めと思ひます。我々は彼等をして日本人の温和なる性質、高尚なる趣味を知らしむると共に、更に自ら練磨して一層進歩向上し眞の日本人の價値を認めさせたいと思ひます。